# 「外国人非集住地域における外国人住民の居場所－北九州地区のカトリック教会に集うベトナム人に着目して－」

2023M30005
納富菜摘

## 論文要旨

本論文の目的は、（１）外国人非集住地域である「北九州地区」においてベトナム人はどのような場を居場所としているのか、（２）そうした居場所はどのような機能を果たしているのかの 2 点である。

第 1 章では、問題の所在と目的について述べた。現在、我が国では外国人住民の増加・多国籍化・定住化が進んでいる。また、これまで外国人住民が少なかった地方部においても同様の事態が進行している。こうした外国人非集住地域では、集住地域と比べて社会サービスや同胞とつながる機会も少なく、制度やコミュニティから孤立するケースが存在する。社会的に孤立やそれから生じる問題に対しては「居場所」の形成が効果的である。外国人住民においても同様である。本論文では「居場所」を、社会関係を形成しつつその人が自分らしく生き生きと生きていける場であり、また孤立した人々や孤独を抱える人々を制度や地域コミュニティにつなげる場と定義する。その上で上記のような論文の目的を設定した。

第 2 章では、外国人の居場所に関する先行研究を「居場所の条件」と「居場所の機能」の 2 つのパターンに分けて整理した。そこでは外国人の「居場所の条件」としては、「日本語ができなくても自尊感情が保持できる」、「差異を尊重し適度に親密な距離感を柔軟に楽しめる」、「安心して母語で自己表現できる」、「必要な支援につながる」、「日本人でないことによる不利を乗り越えられる」、「複合的なアイデンティティを形成できる」といった項目や「役割獲得」「被受容」「社会参加」「交流」「配慮」などが要件として提示されていた。また、「居場所の機能」として、ある論者（奴久妻駿介）は、仲間意識や友達意識の提供（「慰めの源」）、個人に対するケア、自分の資質や能力の社会的発現を挙げた。さらに、同じ居場所であっても世代や時間の経過によってその機能は変わることも述べられていた。

第 3 章では、調査の対象と方法について述べた。まず、北九州地区の在留外国人について言及したのち、本研究の対象者である在日ベトナム人の歴史や北九州地区の在日ベトナム人の状況についてまとめた。その後、インタビュー調査とアンケート調査の項目や方法を提

示した。

第 4 章は、北九州地区のカトリック教会に集うベトナム人 3 名へのインタビュー調査の分析である。A さんにとっては教会の特定の方を介したつながり、B さんにとっては教会のミサ、子ども会、職場、地域のベトナム人コミュニティといった複数の人間関係、C さんにとっては教会に加えて職場が、それぞれ居場所となっていることを明らかにした。また、そうした居場所の機能として、①カトリック共同体として心の安定を保つ、②社会関係の広がりを介したる孤独の解消、③情報交換、④エスニック・アイデンティティの保持、⑤ベトナム人としての誇りの回復といったことが示された。

第 5 章は、北九州地区のカトリック教会などに集うベトナム人に対して行ったアンケート調査の分析である。まず、かれらの基本属性と生活状況を提示したうえで、場の機能について考察した。「カトリック教会」はすべての項目において値が高く、とりわけ「心休まる場」、「情報入手の場」、「ベトナム人の私を大切にできる場」といった面が強い。「職場」は「情報入手の場」と意味づけられていた。「日本語教室」は、「ベトナム語を話せる場」、「ベトナム人の私を大切にできる場」という面が強く、エスニック・アイデンティティの保持に関する機能が強かった。「SNS でのベトナム人のコミュニティ」は「情報入手の場」「元気になれる場」「ベトナム語を話せる場」といった面が強かった。

第 6 章では、それまでの考察で得られた知見をもとに以下の結論を提示した。

（1）本研究の調査対象となった北九州地区のベトナム人において、「カトリック教会」は主要な居場所として位置づけられていた。「カトリック教会」に集う人を対象としているため、ある意味当然かもしれないが、「教会」が心の安定や情報収集、エスニック・アイデンティティや民族的な誇りの獲得の拠点となっていることが示された。ただし、それ以外にも「職場」や「地域のベトナム人コミュニティ」が居場所となっている人もいた。また、空間性を帯びないバーチャルな空間も居場所となり得ることが示唆された。

（2）居場所の機能としては、カトリック共同体として心の安定を保てる、社会関係の広がりにより孤独が解消される、情報を入手できる、ベトナム語や文化が継承できる、ベトナム人としてのアイデンティティや誇りが回復・保持できる、といったことが示された。ただし、同じ場であっても人によって機能が異なり、単一的ではないことが明らかになった。人によって居場所の違いなぜ生じるのか、また同じ場であっても機能の違いがなぜ生じるのかを明らかにしていくことは今後の課題である。